

改縮  
版寫  
中  
等  
習  
字  
教  
本

香川松石書

67

卷二



K220.72

67

2



志思恩忍忿

烏鳥鳧鳴鳴

及汲吸扱級

厄危忌巷卷

立志思想恩惠忍耐忿怒  
烏夜鳥獸家鳧嗚呼嗚動

及第汲汲收取扱等級  
災厄危難忌日陋巷卷軸

草墓幕募慕

二

奉奏泰倅捧

與舉譽學覺

勸歡觀灌鑰

草木墳墓幕府募集欣慕  
奉納奏請泰斗俸給捧持

賜與舉世名譽學校覺悟  
勸業歡樂觀覽灌溉藥罐



債漬積績蹟

祿錄綠椽緣

途  
述  
道  
通  
遣

遺  
赴  
趣  
廷  
延

公債漬物堆積成績事蹟  
封祿記錄綠葉緣側因緣

半途陳述道路行通派遣  
遺失赴任趣意法廷遷延

例  
恻  
倒  
側  
測

術  
衙  
衛  
衝  
衡

壁 璧 僻 癖 避

辨 辯 辮 弮 粥

例題  
怜制  
倒影  
側面  
測量  
術數  
郡衙  
門衛  
衝突  
權衡

合璧  
寶璧  
僻地  
習癖  
避暑  
辨別  
辨明  
花辨  
良弼  
糜粥

決快扶缺訣

飲欲欽歌歎

奴努怒恐怒

二  
十  
四

傳傳博薄簿



決心愉快別扶缺席訣別  
欣喜欲望欽定歌舞三歎

奴婢努力憤怒恐懼寬恕  
師傅傳記博覽淺薄帳簿

千丈之堤以

螻蟻之穴潰

百尺之室以

突隙之煙焚

書を讀むは當に沙を淘志  
て金を拾ふが若く為へし

二六

取る事は其廣きを欲し擇  
ぶ事其その精しきを欲す

文章經國之大

業不朽之盛事

諾輕者信必寡

面譽者背必非

學者その身を奉ずる當  
に金玉のごとく然るべし微

六〇世

にだふ闕失あらば以て天  
下の至寶となすに足らば

合抱之木生於

二八世二

毫末九層之基



起於累土千里

之行始於足下

泰山不讓土壤

河海不擇細流

久方の月如桂の影はかり

家如風をも吹かせしはかり

詔書

朕惟ふに方今人文日に就り月

に將み東西相倚り彼此相濟し  
以て其の福利を共にす朕は爰に  
益々國交を修め友義を惇し

列國と與に永く其の慶に頼ら  
むことを期す顧みるに日進の大  
勢に伴ひ文明の惠澤を共にせ

むとする固より内國運の發展  
に須つ戦後日尚淺く庶政益々  
更張を要す宜く上下心を一にし

忠實業に服し勤儉産を治め惟  
れ信惟れ義醇厚俗を成し華を  
去り實に就き荒怠相誡め自彊

息まさるへし

抑々我が神聖なる祖宗の遺訓と  
我が光輝ある國史の成跡とは

揚せむことを庶幾ふ爾臣民其  
れ克く朕か旨を體せよ

御名 御璽

明治四十一年十月十三日

炳として日星の如し寔に克く  
恪守し淬礪の誠を輸さは國運  
發展の本近く斯に在り朕は方

今の世局に處し我か忠良なる  
臣民の協翼に倚藉して維新の  
皇猷を恢弘し祖宗の威徳を對



揚せむことを庶幾ふ爾臣民其  
れ克く朕か旨を體せよ

御名 御璽

二ノ五十一

明治四十一年十月十三日

K720.9

# 松石香川集書



大正四年十月二十九日印刷  
大正四年十一月三日發行

書者

故人

香川

熊

藏

相續者

川

弘

東京市神田區錦町一丁目十番地

三

樹

一

平

東京市日本橋區鐵砲町三番地

柳

原

友

吉



(錢拾貳金册各價定)

發行所

東京市日本橋區

文盛堂書店

東京市神田區錦町二丁目

明治書院

編輯者 兼發行所  
發行所 兼印刷者

